音欲、見唐韻、壑呼各反、猶谿谷也、

澗　釋名云、澗言在兩山間也、古晏反、

〔箋注倭名類聚抄一水土〕玉篇、谿與溪同、新撰字鏡同訓、〇略中廣本無注字、所引文、爾雅及郭璞注、皆無載、按春秋正義引李巡曰、水出於山入於川曰谿、公羊傳疏引、二於並作于、公羊傳疏、又引李巡曰、水相屬曰谷、則知此所引、釋山李注也、廣本無注字、非是、按釋水云、水注川曰谿、注、谿曰谷、說文、谷泉出通川爲谷、谿山瀆無所通者、皆訓多邇賀波、注所引唐韻、與廣韻同、〇略中所引文、今本玉篇不載、慧琳音義引、與此全同、按玉篇古本、每字載諸家訓詁、終以野王案解釋其義、如今本、清曹寅及張士俊、重刊宋本、稱最善、而既爲宋人所刪節、野王案語、無一存者、至元明諸本、割裂更改、去眞益遠、望之傳鈔卷子古本玉篇五卷、每字有野王案語、然每卷首尾皆缺逸、所得僅若干部、雖得見眞本面目、不能取以校是書、誠可惋惜也、說文叡溝也、讀若郝、壑、叡或从土、〇略中廣本無言字、與今本合、太平御覽引有言字、與此合、山田本山下有之字、與今本合、太平御覽引無之字、亦與此合、說文、澗山夾水也、

〔伊呂波字類抄太地儀〕谷タニ　義不詳、上古は丘をばヲと云て、谷に對し言ひけり、八岐大蛇、蔓延于八丘八谷之間、味耜高彦根神、映于二丘二谷之間といひしが如きこれなり、ヲカといひ、タニといふは、起と絶といふの謂にて、山起立ち、山隔絶つ義なるべし、オキといひ、タチといひ、チカといふ轉語なり、丘讀てヲといひしを、また尾の字を假りて、ヲと讀む、舊事紀に見えし、八丘八谷の字、古事記には八谷八尾としるせしが如きこれなり、後人尾上としるしてチソヘとよむこと、これらによるなるべし、其後丘陵岡岳等の字、讀て幷にヲカといふ事になりて、峯嶺の字、讀てヲといふ事にもなりたり、日本紀萬葉集等に又谷の字、よむでヤツといひ、ヤといひ、セといひ、ウナといふが如きは、方言の同じからぬにはれるにや、又讀てハザマといふが如きは、山夾水曰澗、など見えし義に同じかるべし、谷讀てヤツといふ事は、播磨國風土記に見えたり、されば